

江川地区に「水田型市民農園」開設 里山の景観を守り昔ながらの農業

【農産物をブランド化へ】4

市では「農業と自然の共生地域づくり」を掲げ、環境にやさしい農業を推進しています。そのひとつが江川地区のビオトープ（生物生息空間）化です。多様な動植物を育む里山の生態系を守るため、耕作放棄地を水田として甦らせ、市民農園として活用していきます。



さわやかな風が吹きぬける中の除草作業ではいい汗を流しました

利根運河に隣接する江川地区は、県北西部には珍しい大規模な谷津

田空間を残し、貴重な動植物が多いです。

同地区は昭和20年

代に水田として整備されました。しかし、次第に耕作放棄が進み、荒れ地となっていました。

一時は開発業者による住宅地整備が計画されたことから、市では、無秩序な埋め立てなどによる自然破壊を防ぐため、平成16年3月に「自然環境保護対策基本計画」をまとめ、江川地区をビオトープとして整備する計画を立てました。

その後、貴重な動植物の保護のために

は、周辺の里山なども一体的に保全する必要があるため、平成18年3月に計画を修正し、保全エリア

をさらに拡大しました。

また、市では、平成18年9月、農業生産法人「株式会社野田自然共生ファーム」を設立しました。

江川地区をビオトープに